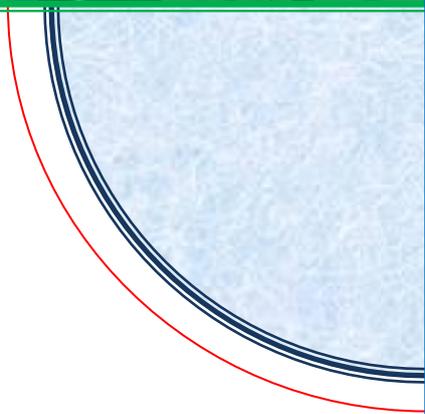
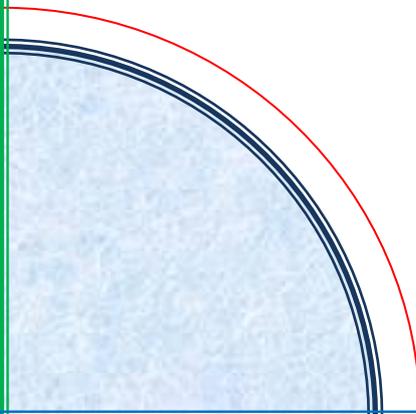




平成23年度 市民環境調査「冬鳥の観察」報告書



川越市



目 次

● 観察会の概要 1

1. 目的 2. 日時 3. 開催場所 4. 講師	}	1
5. 参加者数 6. スケジュール 7. 観察結果		
8. 確認できた野鳥		2
9. 野鳥を観察できた主な場所		4
10. 講義・観察会の風景		5
11. アンケート結果		7

● 配布資料 8

- 平成23年度 市民環境調査「冬鳥の観察」 (日程表)
- 鳥を通して見た川越の自然環境
- 市民環境調査「冬鳥の観察」 (テキスト)
- 観察記録 (伊佐沼周辺) 転記用
- アンケート

観察会の概要

- 1. 目的** 過去現在において野鳥の生息状況がどのように変化したのかをバードウォッチングを通して調査し自分の身の回りの環境について考える
- 2. 日時** 平成24年2月9日(木) 9:00~12:00
- 3. 開催場所** 農業ふれあいセンター及び伊佐沼周辺
- 4. 講師** 笠原 啓一氏
(財)埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部長
- 5. 参加者数** 10名
- 6. スケジュール**
- | | |
|-------------|--|
| 9:00~9:10 | 挨拶、講師紹介、資料及びスケジュール確認 |
| 9:10~10:00 | 講義(スクリーン使用)
○鳥についての基礎知識
○バードウォッチングについて |
| 10:10~11:10 | 冬鳥の観察 |
| 11:20~12:00 | まとめ、質問、提出物記入 解散 |
- 7. 観察結果**

(実際の観察時間 10:10~11:05)

区分	鳥の名称
水辺の鳥	① カワウ ② アオサギ ③ ダイサギ ④ コガモ ⑤ ヒドリガモ ⑥ ホシハジロ ⑦ チドリ(SP) ⑧ ハクセキレイ
市街地・公園の鳥	⑨ キジバト ⑩ スズメ
農耕地の鳥	⑪ ムクドリ ⑫ カラス(SP)

※SP…種名までは識別できなかったもの

当日の天候は、晴れ、微風でした。

今回の観察の結果、12種類の野鳥を見ることができました。サギは、ダイサギ、アオサギの2種類が、カモは、コガモ、ヒドリガモ、ホシハジロの3種類が観察できましたが、普段よく見られるコサギやカルガモなどは観察できませんでした。

キジバト、スズメ、ムクドリ、カラスについては、主に沼の東側の農耕地で確認できました。

伊佐沼北側は工事中で、鳥はほとんど確認できませんでしたが、沼の中央部付近から南側にかけて、多くの野鳥を確認することができました。

しかしながら、今回観察できた鳥の種類は、前回の調査時(平成15年度)の21種類より少ないものでした。

8. 確認できた野鳥 (種名まで識別できなかった⑦・⑫を除く)

① カワウ
(ペリカン目 ウ科)



② アオサギ
(コウノトリ目 サギ科)



③ ダイサギ
(コウノトリ目 サギ科)



④ コガモ
(ガンカモ目 ガンカモ科)



⑤ ヒドリガモ
(ガンカモ目 ガンカモ科)



⑥ ホシハジロ
(ガンカモ目 ガンカモ科)



⑧ ハクセキレイ
(スズメ目 セキレイ科)



⑨ キジバト
(ハト目 ハト科)



⑩ スズメ
(スズメ目 ハタオリドリ科)



⑪ ムクドリ
(スズメ目 ムクドリ科)



9. 野鳥を観察できた主な場所



↔ 観察ルート

10. 講義・観察会の風景



まずは、基礎知識。講義を受けます。



講師の笠原啓一さん

初めに、講師の先生による鳥とバードウォッチングについての講義を実施。豊富な知識と経験をもとに丁寧に説明していただきました。



当日使用した資料



スクリーンを使用し、鳥の種類ごとに説明。(鳥の名前の由来などの説明もありました。)



現地へ向かう前に、双眼鏡の使い方についての指導。

当日は、気温は低かったですが、晴れて、観察日和となりました。





いよいよ、伊佐沼へ。観察会の開始です。



双眼鏡を使用し、観察します。



観察できた鳥をテキストの写真と見比べ、チェックしていきます。

倍率の高い望遠鏡で確認。
協会の方が図鑑を片手に鳥の種類を
教えてくれました。



○ 終了後、会議室に戻って、観察した鳥を確認しました。

11. アンケート結果

提出いただいたアンケート結果について、主なものを記載しました。

参加者 10名 (アンケート提出者 10名)

1. 今回の調査は何をご覧になって知りましたか？

市広報 10

2. 参加しようと思われた動機について教えてください。

- ・以前から鳥は興味深かったです。 ・野鳥観察が好きです。
- ・伊佐沼の鳥観察に関心がありました。どんな鳥に出会えるのか楽しみでした。
- ・鳥の種類を知りたかった。 ・鳥に興味があった。
- ・探鳥に挑戦。伊佐沼周辺を散策しており、鳥の名前を憶えたかった。
- ・鳥を見て名前を覚えたい。 ・観察の仕方を学びたい。

他

3. 普段、環境について心掛けていることまたは、これから心掛けようと思ったことを書いて下さい。

- ・なるべく土に戻すようにしています。 ・油などは下水に流さず、庭に捨てる。
- ・コンポストを使用 ・買い物バックの使用
- ・河川浄化（地域住民の取組、不法投棄防止の徹底、生活雑排水の管理、浄化槽放流の継続管理） ・環境家計簿の作成
- ・殺虫剤や農薬使用を控える。 ・自然環境運動に参加する。

他

4. 今回の調査に参加された感想をご自由に記入ください。

- ・バードウォッチングをするよいきっかけになりました。
- ・沼の工事のせいか鳥の種類が少なかった。観察時間が少なく感じた。
- ・意外と多くの鳥がみられた。今後は見た鳥の名前を確定したい気持ちになった。
- ・伊佐沼にガイドがいれば喜ばれると思います。
- ・伊佐沼の生きもの、環境の大切さを今以上に感じました。
- ・生態系の大切さが分かりました。
- ・自然環境の大切さを知りました。観察記録の取り方が理解できたようです。

他

ご協力、ありがとうございました。



配布資料

- 平成23年度 市民環境調査「冬鳥の観察」 (日程表)
- 鳥を通して見た川越の自然環境
- 市民環境調査「冬鳥の観察」 (テキスト)
- 観察記録 (伊佐沼周辺) 転記用
- アンケート

平成 23 年度 市民環境調査「冬鳥の観察」

日時：平成 24 年 2 月 9 日（木） 午前 9 時～正午

場所：農業ふれあいセンター、伊佐沼及びその周辺

講師

笠原 啓一氏

(財) 埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部 支部長

日程

◎天候が良い場合

時 間	実 施 内 容	会 場
9:00～ 9:10	挨拶、講師紹介、資料及びスケジュールの確認	農業ふれあいセンター
9:10～10:00	講 義 ○鳥についての基礎知識 ○バードウォッチングについて	
	〈休憩・移動〉	
10:10～11:10	冬鳥の観察（講師による指導・説明）	伊佐沼及びその周辺
	〈休憩・移動〉	農業ふれあいセンター
11:20～11:50	まとめ、質問、提出物記入	
～12:00	解 散	

◎天候が悪い場合

時 間	実 施 内 容	会 場
9:00～ 9:10	挨拶、講師紹介、資料及びスケジュールの確認	農業ふれあいセンター
9:10～10:40	講 義 ○鳥についての基礎知識 ○鳥と自然環境について	
	〈途中、休憩含む〉	
10:40～10:50	質問、提出物記入	
～11:00	解 散	

鳥を通して見た川越の自然環境



鳥の特徴

羽毛を持つこと

1. 飛ぶのに適した身体

- ① 体重を軽くする
- ② 筋肉の発達
- ③ 飛ぶにはたくさんのエネルギーを使う
- ④ 食物は栄養価が高く、消化のよいもの
- ⑤ 視力が良い

2. 飛ぶことにより得られるもの

- ① 生活の場を変える
- ② 外敵から身を守る（逃げる）のに便利
- ③ 昼間活動する、色がわかる

生態系について・・・保護すべき自然とは

1. おてんとうさまのおかげ、全ての生物は太陽の恵みで生きている
2. 何故、鳥を見るか
3. 生物は自分の遺伝子を残す努力をしている

バードウォッチングの薦め

1. 一人でも楽しめる
2. 季節、場所に応じて何時でも楽しめ、季節を感じることができる
3. 体力、年齢を問わない、初めてでも楽しめる
4. 勝ち負けがない、お金がかからない、経済的である
5. 屋外で自然に親しみ、健康に良い
6. 鳥を通じて生態系を学び、自然環境保護の大切さを知る

鳥の種類

世界でおよそ8600種以上、日本でおよそ500種、川越では150種で国内の3分の1弱

毎年見られるのは日本で330種、川越で70～80種

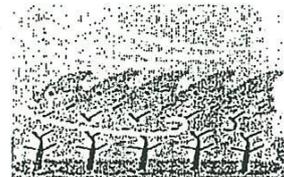
川越で見られる鳥

街の中で、

田んぼや畑で、

川や沼で、

雑木林で、



鳥の種類

世界でおよそ 8600 種以上、日本でおよそ 500 種、川越では 150 種で国内の 3 分の 1 弱。
毎年見られるのは日本で、330 種、川越で 70～80 種。

川越で確認された鳥

街の中で、キジバト・ツバメ・イワツバメ・ヒヨドリ・スズメ・ムクドリ・

田んぼや畑で、ノスリ・チョウゲンボウ・キジ・タマシギ・コチドリ・ムナグロ・タゲリ・
トウネン・エリマキシギ・ツルシギ・コアオアシシギ・アオアシシギ・クサシギ・タカブ
シギ・キアシシギ・ソリハシシギ・オグロシギ・タシギ・セイタカシギ・アカエリヒレア
シシギ・シラコバト・ヒバリ・ショウドウツバメ・タヒバリ・モズ・ノビタキ・ツグミ・
セッカ・ハシボソカラス・

川や沼で、カイツブリ・ハジロカイツブリ・カンムリカイツブリ・カワウ・ヨシゴイ・ゴ
イサギ・ササゴイ・アマサギ・ダイサギ・チュウサギ・コサギ・アオサギ・オシドリ・マ
ガモ・カルガモ・コガモ・ヨシガモ・オカヨシガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・ハシビロ
ガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ・スズガモ・ミコアイサ・トビ・クイナ・バン・オオ
バン・ハマシギ・イソシギ・ユリカモメ・セグロカモメ・アジサシ・コアジサシ・カワセ
ミ・キセキレイ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・コヨシキリ・オオヨシキリ・ホオジロ・
カシラダカ・アオジ・オオジュリン・カワラヒワ・

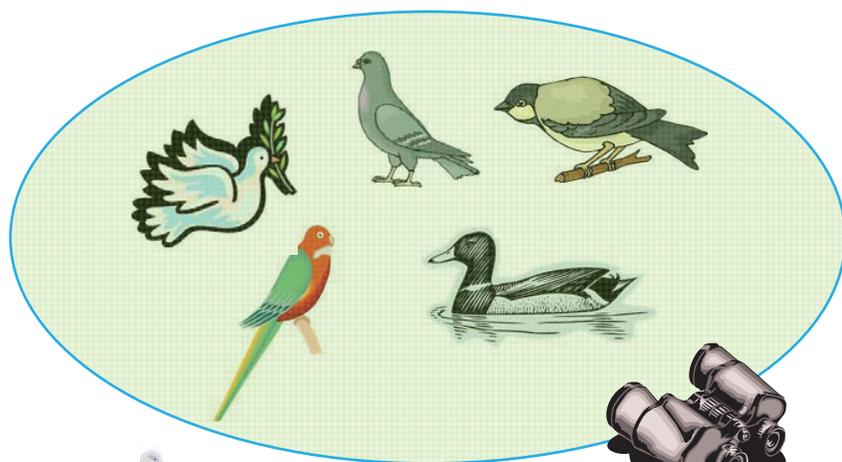
雑木林で、オオタカ・ツミ・コジュケイ・カッコウ・アオゲラ・アカゲラ・コゲラ・ビン
ズイ・ルリビタキ・ジョウビタキ・アカハラ・シロハラ・ウグイス・エゾムシクイ・セン
ダイムシクイ・キビタキ・オオルリ・エナガ・ヤマガラ・シジュウカラ・メジロ・アトリ・
イカル・シメ・カケス・オナガ・ハシブトカラス・

珍しい鳥 市の鳥 雁マガン・クロツラヘラサギ・オオハクチョウ・コハクチョウ・トモ
エガモ・シマアジ・クロガモ・ウミアイサ・ミサゴ・ヒクイナ・イカルチドリ・ダイゼン・
ヒバリシギ・ウズラシギ・コシャクシギ・ツバメチドリ・ウミネコ・ハジロクロハラアジ
サシ・ツツドリ・オオコノハズク・ヒレンジャク・ミソサザイ・ヤツガシラ・トラフズク・
コミミズク・アオバズク・ヒメアマツバメ・アマツバメ・ヤマセミ・アカシヨウビン・キ
クイタダキ・オジロビタキ・エゾビタキ・サンコウチョウ・コガラ・ヒガラ・
ミヤマホオジロ・ウソ・コムクドリ・ハッカチョウ・

「テキスト」



市民環境調査「冬鳥の観察」



平成24年2月9日(木) 9:00~
伊佐沼周辺にて 天候:



目次

- はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1ページ
- 基礎知識・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2ページ
- 観察記録（伊佐沼周辺）・・・・・・・・・・ 5ページ
- 自由欄・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9ページ

☆ はじめに ☆

1 目的

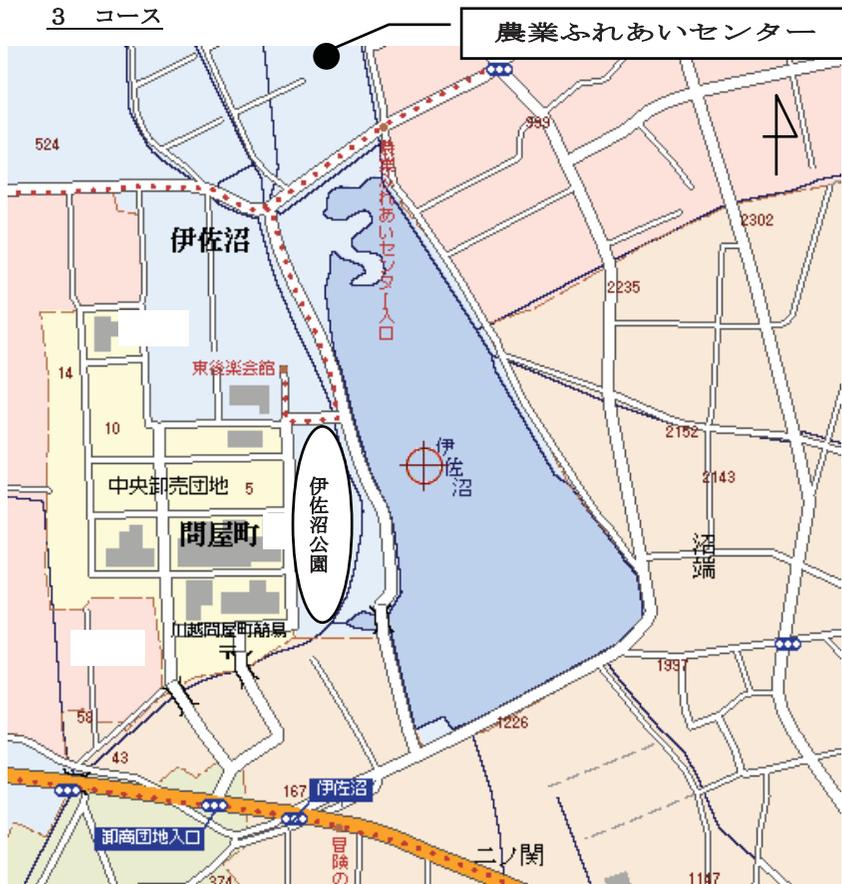
過去現在において、野鳥の生息状況がどのように変化したのかをバードウォッチングを通して調査し、自分の身のまわりの環境について考える。

2 調査方法

5ページ以降に掲載されている鳥の写真を参考にし、その中に見ることができた鳥がいた場合、名前の隣のチェック欄に○を付けて下さい。

また、見ることができた鳥の大まかな位置を、下記にある地図に記入して下さい。

3 コース



☆ 基礎知識 ☆

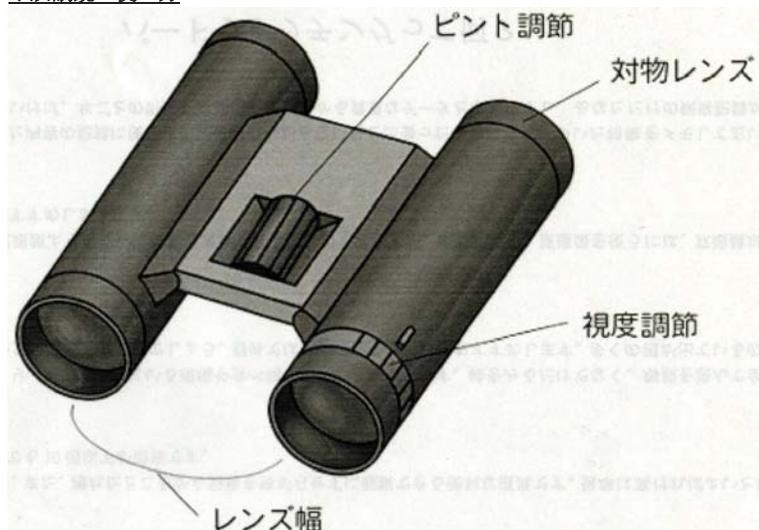
◆春夏秋冬のバードウォッチング

- ①春：冬鳥や旅鳥が北に移動し、夏鳥が南の国からやってくる北上の季節です。
緑が芽吹き、虫達が活発に動き出す頃、その虫の餌に、多くの鳥達が子育てシーズンに入ります。オスがさえぎり、ペアができて、子育てが始まります。
- ②夏：子育てが終わる初夏まで、夫婦の縄張りを宣言するためにオスは歌い続けます。やがて、連れ立った親子が見られるようになります。8～9月頃は、羽が抜け変わる時期で、多くの鳥が活動的ではありませんが、国内の干潟では旅鳥のシギやチドリの仲間が南下して来て、賑わいます。
- ③秋：南下の季節で、夏鳥や旅鳥が南へ移動し、冬鳥が北から飛来し始めます。
- ④冬：寒さや食物の不足などで、生き残りをかけた試練の季節とも言えます。
市街地で野鳥の種類や数が多くなり、木の葉が落ちて姿を見つけやすい季節でもあります。

◆バードウォッチングの道具

- ①双眼鏡：野鳥を近くに感じることができ、また離れた所から野鳥を怖がらせずに観察できる便利な道具です。倍率は高めれば良いというものではなく、初心者なら7～8倍、ベテランでも10倍以下が適当です。
- ②図鑑：観察した野鳥の名前を確かめたり、鳥の暮らしている環境や食べ物を知ることができます。絵を見るだけでなく、解説を読んで全体として大切なこと、「種ごとのすみかや習性」を知っておくと良いでしょう。野外では携帯できるサイズをおすすめします。多くの種が出ているのが良いとは限りません。
- ③望遠鏡：倍率は約20倍位が普通です。双眼鏡よりも更に対象を大きく見ることができますが、視野が狭く、望遠鏡を使うには双眼鏡以上に慣れが必要です。初心者にはまず双眼鏡をおすすめします。
- ④フィールドノート：見つけた野鳥の名前や、観察した内容の記録に使います。名前のわからない鳥と出会った時に、気が付いた特徴をメモしておいて、後で調べるのにも役立ちます。記録を続けていけば、年ごとの野鳥や自然の変化がわかる貴重なデータとなりますし、あなただけの観察記録ができあがります。

◆双眼鏡の使い方

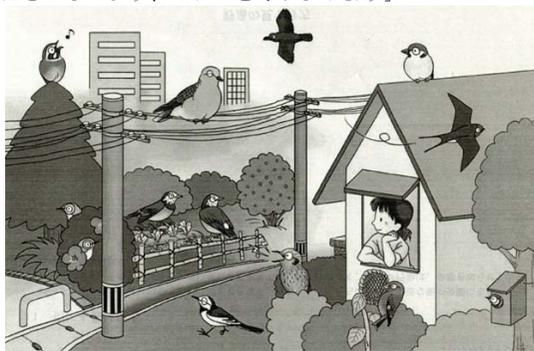


①双眼鏡を自分用にあわせる

双眼鏡をのぞいて、「自分の目の左右の幅とレンズの幅を合わせます」「双眼鏡をのぞいた視野がひとつの○(丸)になるように調整します」「左右の目の視力が違う人は、視度調整をします」「首にかけるひもは短めに、胸のあたりにくるようにします」

②双眼鏡を使う時に気を付けること

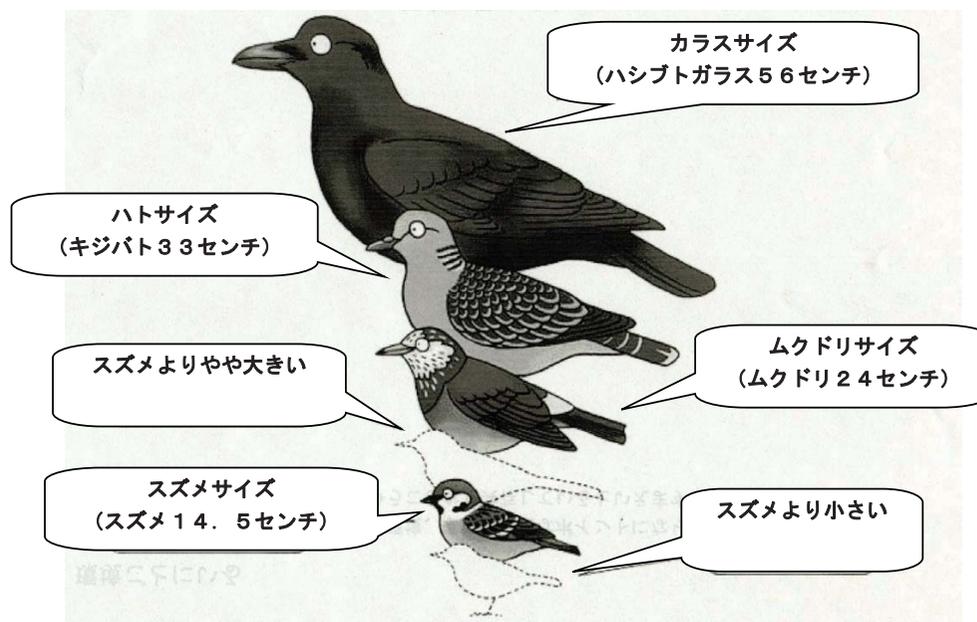
「太陽を見てはいけません。レンズで集まった光を受けて、目を傷める可能性があります」「レンズはホコリや湿気が嫌い。指でレンズに触れるのもいけません。ホコリや水滴、指で触って指紋がついてしまった時などの手入れは、やわらかい専用の布を使いましょう」「人間観察をしてはいけません。周囲の人を嫌な気持ちにさせないように、マナーを守りましょう」



◆ものさし鳥を覚えよう

見分けられるようになるためには、「ものさし鳥」を覚えるのも一つの方法です。「ものさし鳥」とは、身近で出会いやすい鳥の代表「スズメ」「ムクドリ(ムクドリが身近でない地域ではヒヨドリ)」、「ハト」、「カラス」の4種類です。「ものさし鳥」をよく観察することで、出会った鳥の大きさをイメージできるようにするとよいでしょう。例えば、メジロと出会った時に「スズメより少し小さい」、ツグミと出会った時に「ムクドリと同じくらいの大きさ」などと表現します。

※全長とは、くちばしの先から尾羽の先までの長さです。通常は鳥を寝かせた状態ではかりますが、個体差もあるので、数字はおおよその目安と考えてください。



※文書及び写真等は、(財)日本野鳥の会HP・野鳥かみしばい及び(株)日本文芸社発行「野鳥ウォッチングガイド」から抜粋したものです。

☆ 観察記録 (伊佐沼周辺) ☆

1 カイツブリ



2 コサギ



3 カワウ



4 アオサギ



5 ゴイサギ



6 マガモ



7 ダイサギ



8 カルガモ



9 コガモ



10 コチドリ



11 ヒドリガモ



12 カワセミ



13 オナガガモ



14 ユリカモメ



15 ホシハジロ



16 キジバト



17 ハクセキレイ



18 ジョウビタキ



19 セグロセキレイ



20 ツグミ



21 ヒヨドリ



22 ウグイス



23 モズ



24 シジュウカラ



25 メジロ



26 スズメ



27 ホオジロ



28 ムクドリ



29 アオジ



30 ハシボソガラス



31 カワラヒワ



32 ハシブトガラス



☆ 自由欄 ☆

※その他に見られた鳥等を記入して下さい。

氏名	
----	--

◆ 伊佐沼周辺において観察された鳥 ◆

鳥の名前		チェック欄	鳥の名前		チェック欄
1	カイツブリ		17	ハクセキレイ	
2	コサギ		18	ジョウビタキ	
3	カワウ		19	セグロセキレイ	
4	アオサギ		20	ツグミ	
5	ゴイサギ		21	ヒヨドリ	
6	マガモ		22	ウグイス	
7	ダイサギ		23	モズ	
8	カルガモ		24	シジュウカラ	
9	コガモ		25	メジロ	
10	コチドリ		26	スズメ	
11	ヒドリガモ		27	ホオジロ	
12	カワセミ		28	ムクドリ	
13	オナガガモ		29	アオジ	
14	ユリカモメ		30	ハシボソガラス	
15	ホシハジロ		31	カワラヒワ	
16	キジバト		32	ハシブトガラス	

☆ その他に見られた鳥等 ☆

☆ アンケート ☆

1. 今回の調査は何をご覧になって知りましたか？

2. 参加しようと思われた動機について教えてください。

3. 普段、環境について心掛けていることまたは、これから心掛けようと思ったことを書いて下さい。

4. 今回の調査に参加された感想をご自由に記入ください。

ご協力ありがとうございました。

参 考 文 献 等

- (財) 日本野鳥の会ホームページ及び野鳥かみしばい
- (株) 日本文芸社発行「野鳥ウォッチングガイド」
- 笠原啓一氏 提供資料「鳥を通して見た川越の自然環境」



※なお、本報告書の全部または一部の転載・複写複製はご遠慮下さい。

平成23年度 市民環境調査

冬鳥の観察 報告書

平成24年2月9日(木)開催

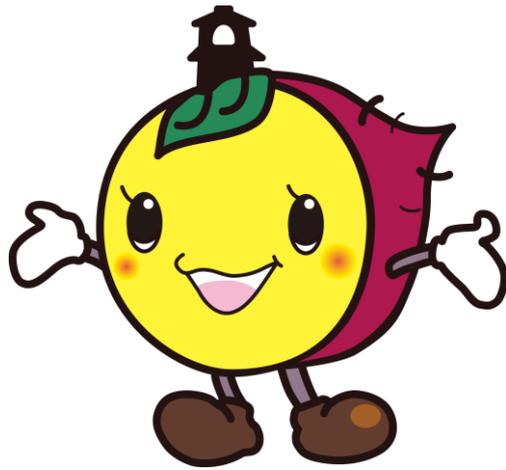
発行元 川越市環境部環境政策課

〒350-8601 川越市元町1-3-1

TEL:049-224-5866(直通)

FAX:049-225-9800

E-mail:kankyoseisaku@city.kawagoe.saitama.jp



川越市マスコットキャラクター

ときも